

スクミリンゴガイの防除適期を週単位で予測するマップ

利用対象: 水稲生産者、指導者

県では、スクミリンゴガイに対して IPM 型の体系防除（冬の耕うん＋農薬散布＋浅水管理）を指導方針として策定しています。本防除体系において、移植直後の農薬の適期散布や浅水管理を実践するには、水温が上昇しスクミリンゴガイの活動が活発になる時期や、水稲の生育に伴いスクミリンゴガイによる食害が抑制される時期を把握する必要があります。

本マップは、週単位でスクミリンゴガイによる食害リスクを見える化します。本マップを活用することで、防除要否と防除適期を判断することができます。

表 1. 週あたりの有効積算水温を基準に設定した1週間ごとの食害リスクと防除要否

1週間ごとの食害リスク	防除要否 ²⁾	想定される被害の様相
1	否	食害は少ない見込み
2	否	わずかに茎葉の欠損が発生するおそれがある
3	要	茎葉の欠損が発生するおそれがある
4	要	欠株が発生するおそれがある

気温（予報値）から地域毎に週単位の食害リスクを算出

- 1) メッシュ農業気象データの日別予報値から算出した有効積算気温（発育零点：17.0℃）を有効積算水温に変換し、食害リスクを算出
- 2) 食害リスク 3（食害が発生する確率 80%）以上を防除が必要であると判定

見える化

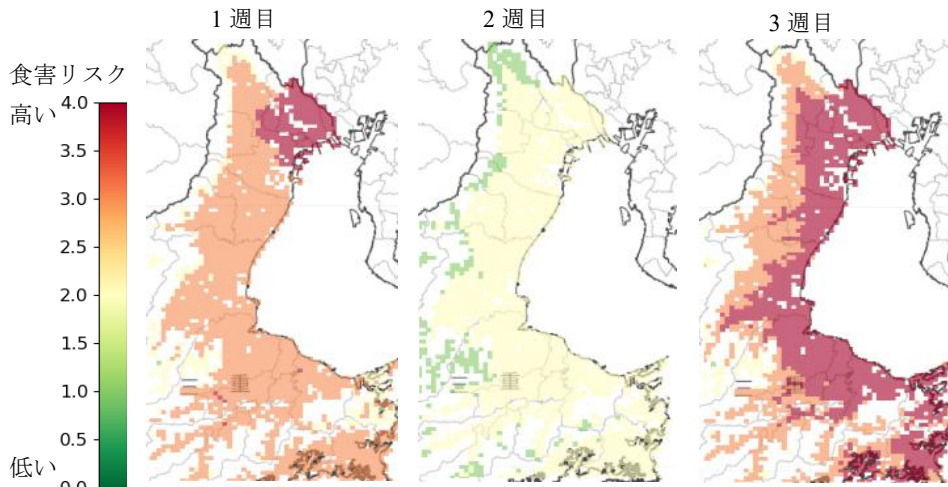


図 1 2023年4月17日移植～3週目の食害発生リスク

※水田が1%以上含まれるメッシュを表示、スクミリンゴガイの未発生地域を含む。

活用の留意点

- 予測マップではスクミリンゴガイの発生量を考慮していないため、防除要否は圃場での当年あるいは前年発生量を参考に判断する必要があります。
- 食害リスクが低いと判定された地域でも、実際の水温が高い場合やスクミリンゴガイの密度が高い場合には食害が発生する可能性があります。
- メッシュ農業気象データを生産現場で使用の際は、有償サービス（株式会社ビジョンテックの有償版またはWAGRI）を利用する必要があります。

問い合わせ先	基盤技術研究室 農産物安全安心研究課	電話 0598-42-6360
参考になる資料	スクミリンゴガイ防除支援マニュアル https://ml-wiki.sys.affrc.go.jp/applesnail/start	